

ジュニアリーダーコース Hokkaido in 森

1 事業のねらい

地域課題の克服に向けた事業の企画を通じて、地域の価値に気付くとともに、SDG s の意義について理解を深め、進んで取り組もうとする意識を高める。

2 事業の概要

- 期日 R2.11.21(土)~23(月) 2泊3日
- 対象 渡島、檜山、後志、胆振管内の中高生
- 人数 18名
- 場所 ネイパル森
- 協力 北海道地方 ESD 活動支援センター、鹿部町役場
元青年海外協力隊 皆嶋氏、関係教育局

3 プログラム

	9:00		10:00		12:00		13:00		14:00		15:00		17:30		19:00		20:00		22:00			
11/21 (土)							開 会 式		交 流		講 演		グ ル ー プ 研 修 I		夕 食		グ ル ー プ 研 修 II		入 浴		就 寝	
11/22 (日)	朝 食	準 備	話 題 提 供		グ ル ー プ 研 修 III		昼 食		グ ル ー プ 研 修 III				夕 食		活 動		入 浴		就 寝			
11/23 (月)	朝 食	準 備 清 掃	グ ル ー プ 研 修 III		全 体 交 流		閉 会 式															

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 地域課題の抽出と共有
 - ・SDG s について学び、ワークショップで開発目標に照らし合わせながら地域の課題を出し合い、考えや意見を交流できるようにした。
- 地域課題の克服に向けた事業の提案
 - ・地域の振興や課題解決の事例発表を参考にして、課題にアプローチする視点をもてるようにした。
 - ・ワークショップで課題克服に向けた具体的な方策を考案し、模造紙にまとめた。
 - ・その成果をポスターセッションで全員が発表することとし、一人ひとりが主体的に活動へ参加できるようにした。



事例発表から視点を学ぶ



全員が具体的な方策を発表

5 事業の評価



- アンケート調査結果
 - ・「責任ある行動」を意識して、全ての参加者が主体的に活動へ参加
- 参加者の声
 - ・SDG s について、自分たちでできることから取り組んでいきたい。
 - ・まちづくりについて、役場の人と事業を企画してみたい。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 「自分たちでできることから取り組みたい」との声が多くあり、地域の課題克服に向けた具体的な方策を考案したり、ポスターセッションで全員が発表するようになりしたことで、自分の役割を意識し主体的な活動を促すことができたと考えられる。
- 企画案の様式にSDG s の項目を加え、ポイントを絞った内容にまとめられるようにすることが必要である。



企画のポイント

SDG s の開発目標に照らし合わせた地域課題の抽出と、主体的な活動を促すための工夫

フロンティアリーダー養成アカデミー

1 事業のねらい

交流や地域課題解決に向けた活動をとおして、地域のよさを客観的に見つけ、創造的・主体的に地域活動に参画する意欲・態度を身につけ、地域の未来を担う人材の育成に寄与する。

2 事業の概要

- 期日 R2.9.19(土)~21(月) 2泊3日
- 対象 十勝管内の中学生・高校生
- 人数 19名
- 場所 ネイパル足寄
- 主管 北海道教育庁十勝教育局

3 プログラム

	6:30	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
9/19 (土)							昼食	開会式	グループワーク①	グループワーク②		夕食	グループワーク②	入浴自由	就寝		
9/20 (日)	起床	朝食	活動準備	グループワーク③			昼食	グループワーク③				夕食	グループワーク④	入浴自由	就寝		
9/21 (月)	起床	朝食	活動準備	グループワーク④	閉会式		昼食										

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- ディベートやインタビューによる人との係わり
 - ・ワールドカフェやディベートによる意見の交流や、フィールドワークによる街頭インタビューなどで人との係わりを多く設定し、多様な思考に触れ、自己の思考を深めることができたようにした。
- 地域の未来に関わろうとする意識の向上
 - ・高校生や大学生が取り組んでいるまち作りの活動事例についての講演を取り入れることで、まちの課題や解決方法について考えを深め「自分ができること」を提案できるようにした。

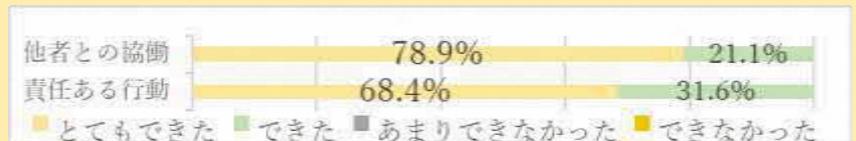


ディベートによる意見交流



インタビューによる課題把握

5 事業の評価



- アンケートから
 - ・「他者との協働」「責任ある行動」の項目で全ての参加者が「とてもできた」「できた」と回答した。
- 参加者の声
 - ・街の方に話を聞き、普段なかなか目につかず、スルーしてしまっていることなどにも気づき改善について深く考えられた。
 - ・自分の暮らす町に帰っても、今回の経験を活かし、活動できるよう頑張っていこうと思った。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 自分の住む町に戻ってから行動を考える声が多かったことから、参加者間の意見交流や地元住民へのインタビューなど様々な年代や立場の人の考えを聞くことで、地域課題について深く考える事ができたものと考えられる。
- 事業後、自分の住むまちで行動を起こすことができるよう、管内市町村教育委員会との連携や情報共有が一層必要である。



企画のポイント

他者との交流を多く設定し、事業後の地域活動につながるような仕掛け